



2018年 9月20日
第25号

JR東労組 
Yokohama

JR東労組横浜地本
発行人 助川一実
編集 情宣部

横地申第3号

『事務業務の再構築』に関する基本申し入れ

団体交渉行う！！②

①からのつづき・・・

4、業務に必要な電話回線は各地区1線を基本として4回線以上とし、FAXとは別回線とすること。

必要な整備は実施していく。

<組合>電話回線は4回線以上を引き続き求めていく。

<会社>JR電話は3回線、FAXは1回線、NTT回線は電話とFAXをそれぞれ1回線ずつ設置する。また、電話機については一人1台ずつ設置する考えである。

<組合>一つの職場に集中することで、この電話の回線数で対応できるのか。

<会社>現行では変更は考えていないが、今後運用後に職場からの意見があれば会社として検討する。

<組合>今後、個人で申し込みをするにあたり運輸職場では輸送障害発生時に、1回線しかないので手続きが遅れてしまう可能性がある。せめてFAXだけでも1回線増設をしてほしい。

<会社>この場では回答できないが、意見として承る。

<組合>総合事務センターの始業時間は。

<会社>企画部門と同じ9時20分～18時で営業する。またフレックスの適用となる。

5、カフェテリアプラン関係書類（レジャー施設補助）については。効率的かつスムーズに社員に受け渡しができるようにこれまでと同様に職場で発行すること。

横浜総合事務センターにて発行する。

<組合>今後の問い合わせについて、新潟のオペレーションセンターから現場への問い合わせはあるのか。

<会社>今後は総合事務センターに問い合わせが来ることになる。

<組合>請求した関係書類はどのように本人にわたる形になるのか。

<会社>これまでは申請があった即日発行ができたが、今後は事務センターを介しての手続きとなるので概ね一週間程度時間がかかることがあるので、余裕を持った手続きを周知していく。

6、異動にあたっては、丁寧な面談等を行い社員の希望にそっておこなうこと。

社員の運用については「任用の基準」に基づき取り扱っていく。

交渉で確認した事

・施策に対して社員が不安に思っていることは望ましくない。不安もいろいろあるが、一つ一つ解消に向けて努めていく考えである。

将来については、事務業務は社員がいる以上はなくなる。効率的にシステム化や機械化もあるが、「人にしかできないこと(業務)」をすみ分けて会社として事務の取り扱い業務をきちんと運営し、社員が困らないようにしっかり業務運営体制を築いていく。